

### 3.12.3 国際推進部門 標準化推進室

室長 古賀康之 ほか6名

#### 国際標準化活動の推進

##### 【概要】

NICT の研究成果が実社会において広く活用されるよう、研究成果の社会還元の一環として、国際標準化活動の強化、推進を行っている。具体的には、標準への反映を念頭においた研究開発を推進し、その成果を国際電気通信連合（ITU）等の国際標準化機関や各種フォーラムに寄与文書として積極的に提案することを支援している。また、専門的な知見を有する中立的な立場という観点から、標準化に係る各種委員会への委員の派遣等を積極的に行うとともに、国際標準化で活躍することを目指した人材の育成を行っている。さらに、標準化に関するフォーラム活動、国際会議等の我が国での開催支援などにより、研究開発成果の国際標準への反映を通じた我が国の国際競争力の強化に貢献している。

##### 【平成 23 年度の成果】

#### (1) 国際標準化会議等への参加、標準への反映

- ① 研究開発成果を国際標準に反映していくため、NICT 職員は各種国際標準化機関等における会議等に積極的に参加するとともに、研究開発成果を寄与文書として提出した。また、標準化に係る各種委員会、国際標準化機関等の会議等において、NICT 職員は議長等としての役割を果たすとともに研究開発成果を適切に標準に反映する観点から、積極的にエディター等の役割を努めた。
- ② 新世代ネットワーク、ワイヤレスネットワーク、サイバーセキュリティ、電磁環境等の分野において NICT の研究開発成果を反映した国際標準が成立するなどした（図 1）。
- ③ NICT 職員が、ネットワークを介して音声翻訳を行う枠組みを提案し国際標準化を行ったことに対して日本 ITU 協会賞（国際協力賞）を、NGN（Next Generation Network）から FN（Future Network）に向けたネットワークアーキテクチャの標準化の推進を行ったことに対して情報通信技術賞 TTC 会長表彰をそれぞれ受賞した。



図 1 平成 23 年度に成立した ITU-T 勧告の例（Y.3001（新世代ネットワーク）、X.1500（サイバーセキュリティ））

## (2) 標準を活用した技術等の成果発信

平成 23 年 10 月にジュネーブで開催された ITU 世界テレコム 2011 に日本パビリオンとして参加（図 2）。ITU の標準化に貢献した技術や東日本大震災に対応した技術等として、ITU-T 勧告 F.745 及び H.625 に基づくネットワーク型音声翻訳システム（図 3）、UWB 技術を用いたボディアリアネットワーク、コグニティブ無線技術を用いた地域ネットワークインフラ、電波を利用した人検知システムの動態展示を実施した。

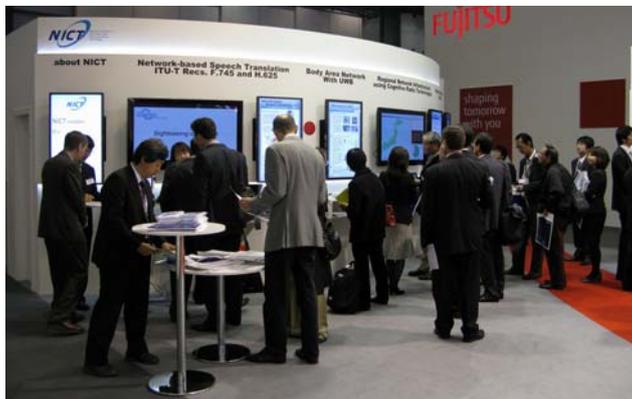


図 2 ITU 世界テレコム 2011 NICT の展示コーナー



図 3 ネットワーク型音声翻訳システムの説明を受ける  
トウレ ITU 事務総局長

## (3) 標準化活動に関する人材育成施策の実施

標準化活動に関する人材育成の一環として、NICT 内の研究者に対して国際標準化に関する最新事情の周知・啓発を目的として標準化勉強会を実施し、標準化に実際に携わっている外部専門家の講演を行った。

## (4) 標準化に関するフォーラム活動への支援、標準化に関する国際会議等の我が国における開催支援等

- ① 国内のフォーラム活動としては「新世代ネットワーク推進フォーラム」の IP ネットワークワーキンググループ事務局を務め、IP ネットワークの標準化の推進に寄与した。
- ② 平成 23 年 8 月に京都で開催された ITU-T の標準化に関する会議 (Focus Group on Driver Distraction, Joint ISO/ITU Workshop on Standards on ITS Communications) を開催（一般社団法人情報通信技術委員会と共催）し、NICT の研究開発成果をアピールした。
- ③ 国際標準化に関する重要技術分野であり、NICT が積極的に標準化に取り組んでいる「健康管理センシングネットワーク」分野について標準化活動の動向調査を行った。